

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0311 NO109

校長 伊波喜一

空晴れて 薄日差せども 重ね着す 風に揺れるか ユキヤナギの芽
一昨夜来の雨が上がり、今朝は晴れ間がのぞいている。この度の豪雨は全国的に、冠水や雪崩を引き起こした。水の力は侮れない。

そんな陽気の定まらない中、家のサクランボのつぼみが開き始めた。つい数日前までは固い緑にくるまれていたのが、この日差しであっという間に膨らんだ。うす桃色を覗かせたかと思いきや、白い花に変わっていく。目には見えねど、季節の変わり目を正確に感じ取る自然の力に、驚かされる。11日で東日本大震災から7年経った。被災された方々の歩まれてきた道のりは、言語に絶するものがある。慣れ親しんだ故郷を離れ、不慣れな土地で新生活を始めるのは至難である。何よりもこたえるのは、大震災の記憶が風化することであろう。存在や事実を忘れられることほど、辛いことはない。

先月、道の駅で行われた東北海産物フェアで買い物をした。「大変でしょうけど・・・頑張ってくださいね」。そう声かけするのが、精一杯だった。すると「はい、ありがとうございます」と満面の笑みが返ってきた。少しでもこちらの思いが伝わったのなら、嬉しい。